

再評価実施事業調書

番号	2	事業名	連続立体交差事業		路線又は箇所名等		新京成線(鎌ヶ谷市)			
事業所管課			道路整備課		事業主体		千葉県			
事業化年度	平成13年度	用地着手年度	平成14年度	工事着手年度	平成14年度 工事終了(認可)年度	令和6年度	再評価の理由		再々評価	
費用便益比 B/C	1.8 (-)	総費用	595億円 (-)	総便益	1.051億円 (-)	基準年	令和2 年度	供用開始 年度	令和元 年度	

※上段:全体事業費 下段():残事業費

【事業概要】

(目的)

本事業は、鎌ヶ谷市の中心市街地を走行している新京成線において、鎌ヶ谷大仏駅～くぬぎ山駅間の約3.3kmを高架化し、既存の踏切12箇所を除却することにより、交通渋滞や踏切事故の解消を図ると共に、鉄道により分断された市街地の一体化を図るものである。

(規模)

- ・事業費 : 463億円
(全体事業費528億円(鉄道負担含む))
- ・事業延長 : L=3,257m
- ・事業認可期間 : 平成13年度～令和6年度
- ・高架化する駅 : 北初富駅、新鎌ヶ谷駅、初富駅

【事業の進捗状況】(令和2年度末見込み)

全体計画(億円)	投資事業費(億円)	残事業費(億円)	進捗率(%)
463	435	28	94

【社会経済情勢等】

- ・新鎌ヶ谷駅周辺の市街地の活性化を図るため、独立行政法人都市再生機構施行の新鎌ヶ谷特定土地地区画整理事業によるまちづくりが進展。
- ・高架化前の平成29年度時点において、12箇所の踏切における自動車の踏切遮断時間は、1日当たり平均約4.5時間であり、特に国道464号との踏切では、踏切自動車交通遮断量(台時/日)が、5万2千台時/日となっており(ボトルネック踏切(5万台時/日以上))、踏切を起点とする交通渋滞が慢性化。
- ・平成27年度から令和元年度の踏切事故件数は、12件(死亡事故1件、物損事故11件)
- ・令和元年12月に高架化が完了し、踏切は除却済。

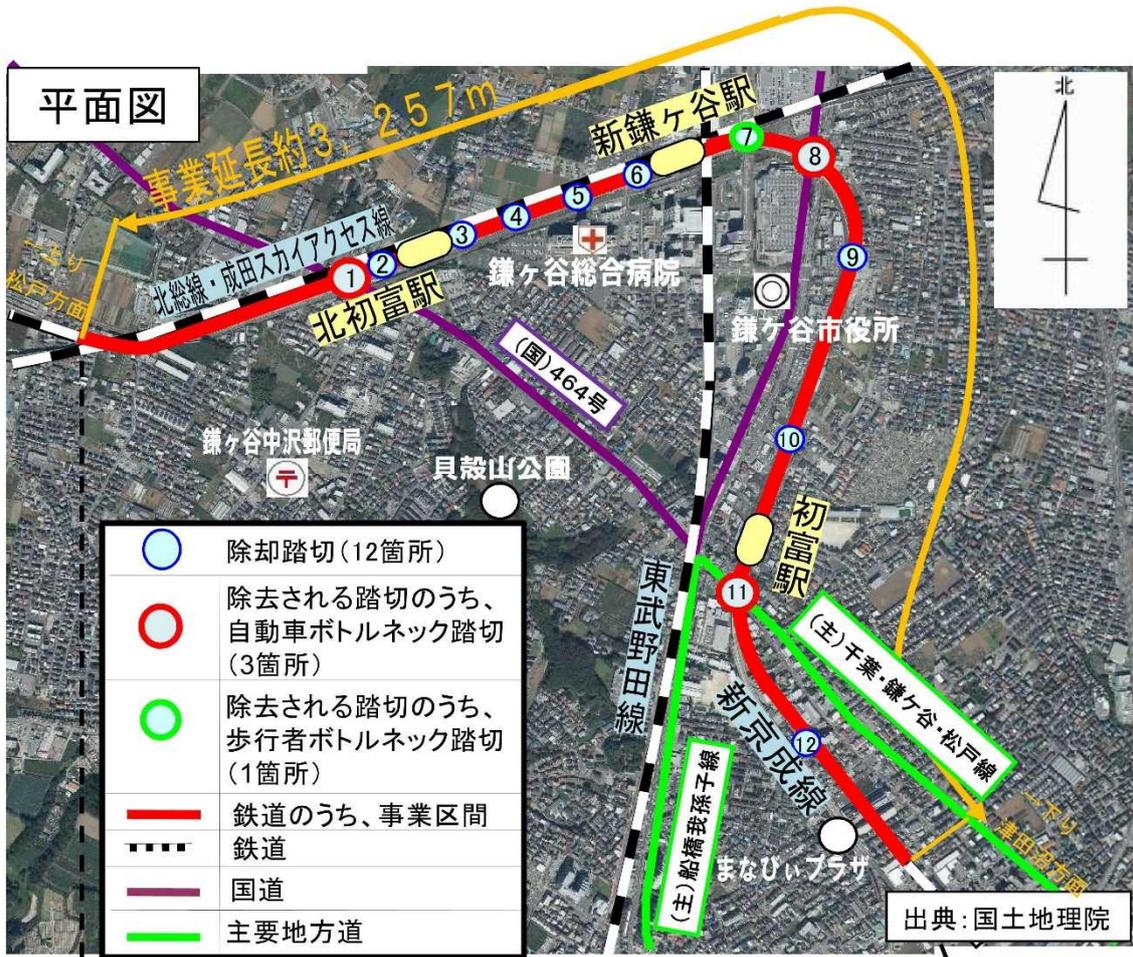
【対応方針(案)】

継続

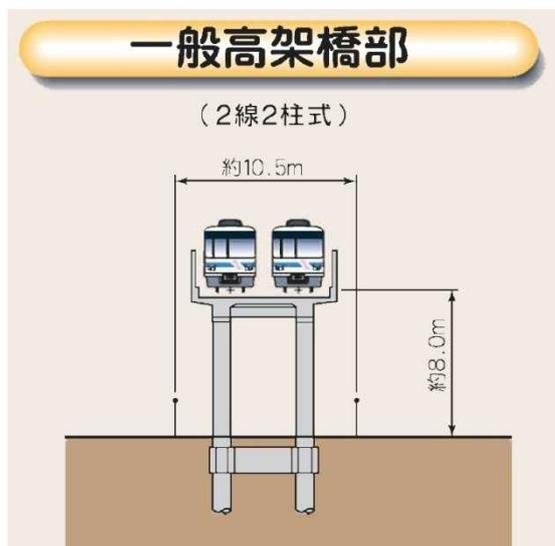
- ・費用便益比(B/C)が1.8であり、投資に対する効果が見込まれる。
- 高架区間内の踏切が無くなり、踏切に起因する交通渋滞や事故が解消されること、救急搬送時間の短縮が見込まれること、大規模災害発生時の輸送ルート確保による防災機能の向上につながるといった効果が期待される。
- 着実に事業を推進していることから、事業を継続し、早期完成を目指す。

事業概要図

番号	2	事業名	連続立体交差事業	路線又は箇所名等	新京成線（鎌ヶ谷市）
----	---	-----	----------	----------	------------



標準断面図



位置図



【別紙様式 5】

再々評価事業に関する調書

番 号	2	事 業 名	連続立体交差事業	路線又は箇所名等	新京成線(鎌ヶ谷市)
事業化年度	平成 13 年度	用地着手年度	平成 14 年度	工事着手年度	平成 14 年度
【再々評価の概要】					
再評価実施年度 (基準年)	平成 30 年度	供用開始年度	平成 36 年度	対応方針	継続
B/C	1.9 (6.4)	総費用	513 億円 (70 億円)	総便益	972 億円 (443 億円)
※上段:全体事業費 下段():残事業費 再評価時の委員会の意見 及び当時の状況 継続が妥当 委員からの意見は特になし					
再評価時の進捗状況及び再評価時想定の 5 年後の進捗状況					
	計 画	進捗状況	5 年後の想定進捗状況		
全体事業費	436 億円	404 億円	436 億円		
用地取得面積	10,924m ²	10,924m ²	10,924m ²		
供用面積(延長)	3,257m	0m	3,257m		
【再々評価の概要】					
再評価実施年度 (基準年)	R2 年度	供用開始年度	R 元年度	対応方針	継続
B/C	1.8 (-)	総費用	595 億円 (-)	総便益	1,051 億円 (-)
※上段:全体事業費 下段():残事業費 現在の進捗状況					
	計 画	進捗状況(R2)			
全体事業費	463 億円	94%			
用地取得面積	10,924m ²	10,924m ²			
供用面積(延長)	3,257m	3,257m			
再々評価後の経過及び処理状況	平成 30 年度 再評価(継続が妥当である) 令和元年度に高架橋工事が完了。新京成線の高架運行が開始された。 令和 2 年度は仮線撤去工事を実施中。				